

グラビア	地域を支える人 錦織大輔さん・島根県出雲市	1
発掘！地域の希望のタネ	〈津田エリア〉香川県さぬき市	5
給食のじかん	〈くじらのごまみそ和え〉宮城県石巻市 佐々木剛	6
書評	押田五郎 著『シリーズお仕事探検隊 ごみ清掃のお仕事』菅原敏夫	8
焦点	結局誰が汗をかくのか？「人・農地プラン」 伊藤亮司	10
	実質化をめぐる課題—新潟県の事例から	

特集 コロナ禍の祭りとコミュニティ

	コロナ禍における都市祭礼のレジリエンス 武田俊輔	20
	—長浜曳山祭の再開を事例として	
	盆踊りとコミュニティ 大石 始	28
	—多様な人びとを繋ぐ空間とその可能性	
インタビュー	「第二のふるさと」を守り続ける 内田清高+田中有美	37
	—横浜市青葉区 奈良北団地の夏祭り	
	「日本三大ばやし」の伝統をつなぐ 高瀬幸広	45
	—秋田県鹿角市の花輪ばやし	
	祭りを支える職人を支える 石水睦津美	50
	—西条まつり伝統工芸継承プロジェクト	
	祖国ミャンマーに支援を届ける キン・ゼッヤーミン	56
	—東京ダジャン祭り 2022	

自治研活動レポート	第3回自治研UNDER 35 全国集会 in 弘前 黒田麻美	63
	クマ捕り名人の「親方」は二八歳 !!—青森県本部 赤平泰衛	66
連載	静岡自治研だもんで！●歴史・文化・自然が調和し、見処・遊び処がぎゅっと詰まったまち 掛川市 横山 晃	68
	静岡自治研集会●分科会座長メッセージ	
第6分科会	災害に強いまちづくり 奥田龍弥	
第7分科会	まちおこし 千葉 猛	
第8分科会	自治体DX最前線！ 榎田博之	70
第9分科会	SDGs×生活×自治研 村野祐輔	
特別分科会	今、必要とされる公共サービスと自治 音羽智樹	
	自治体の雑誌案内 本田恵美子	
	福井 淳	
	自治体の雑誌案内	75
	次号予告・編集部から	76



『シリーズお仕事探検隊 ごみ清掃のお仕事』 解放出版社 一九八〇年

押田五郎 著

清掃という仕事

本書を読んでいる間にも、大阪の就職情報サイトが「底辺の仕事ランキング」という、差別的な記事を配信し、批判された。その中には「ゴミ」収集スタッフと書かれていた。「清掃」スタッフとは別に。差別はあからさまに、なおかつ巧妙になっている。



本書は、東京都清掃局世田谷清掃事務所を皮切りに、四四年間収集作業員として働いた著者が、清掃事業の歴史、作業の実際、リサイクル、清掃工場、清掃車の仕組み、安全衛生、災害支援などなどについて記した。さらに小中学生にもわかる平易な表現で、漢字にルビを振り、言い回しにも配慮がうかがえる。著者の大変さとともに、編集者の努力にも注目したい。

いう結論だ。コロナ禍で気がついた。「テレワークのできない仕事」が社会を支えている」。もう二冊

本書を読んでもう二冊。一冊は、このお仕事探検隊シリーズの第一弾、栃木裕『屠畜のお仕事』（解放出版社）。都立芝浦屠場の現場から、仕事、技術、食肉流通、そして差別を伝える。本書でも触れられている水平社宣言。今年宣言一〇〇年にあたる。栃木は、宣言の「間違った屠畜の記述」を指摘する。表現によって、屠畜への差別をなぞる可能性がある。書評子も宣言を読み直した。

清掃・人権交流会

ごみ清掃の仕事から、社会とのかかわりが見えてくるように工夫されている。本書の特徴は、差別の問題に視点が移っていくことだ。職場への差別手紙をきっかけに、清掃・人権交流会が発足する。フィールドワーク、屠場職場との交流、世界の清掃労働者とも。

著者は自治労東京都本部の役員も勤めた。職場の安全、待遇、社会的活動のためには、清掃事業は、公務員が直営でと

もう一冊は、藤井誠一郎『ごみ収集とまちづくり』（朝日選書）。自治労次代を担う研究者育成制度の修了者。『ごみ収集という仕事』（コモンズ）の次作。藤井は東京新宿清掃事務所で清掃車に乗って収集作業を経験した。

評者 菅原敏夫 本誌編集委員